| 学校番号 | 115 |
|---|---|

# 令和２年度　公民科

| 教科 | 公民 | 科目 | 現代社会 | 単位数 | ２単位 | 年次 | １年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 高校現代社会　新訂版　（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 最新図説現社　（浜島書店） | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代社会で起こる様々な事象は、ニュースや新聞記事等での報道の内容や論評の仕方が違う。何が正しいのか、何が真実であるのかを見極める力を授業のなかで身に着けてほしい。そのため、授業では基礎知識を学ぶだけでなく、自分の意見を持てるようにレポートや発表等も実施する。講義形式の授業が中心となるが、板書事項を写すだけでなく、常にメモをとり、自分で考えることを大切にしたい。現代の時事問題・国際関係については常に扱っていく。

## ２　学習の到達目標

① 現代社会で起こる様々な問題について、公正かつ冷静な判断ができるようにする。具体的事象として、昨今における民族・宗教・領土問題について取り上げ、理解を深めていく。
② 現代を生きる人間としての在り方や生き方について考える力を身につける。
③ 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## ３　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:資料活用の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 現代社会の様々な問題に関心を持ち、それらの問題について意欲的にその本質を理解し、また平和で民主的なより良い社会の実現のために、社会に参加・協力する態度を身につける。 | 現代社会の様々な問題について考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を理解し、それを公正に判断して、その結論をいろいろな方法を用いて表現する。 | 時事問題等を利用し、様々な情報を各メディアから収集し、どの情報が正しく、必要なものかを見抜く力をつけていく。 | 現代社会に生起する様々な問題や、人間の生き方などに関する基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身につけていく。 |
| 評価方法 | 定期考査<br>レポート作成<br>行動観察<br>プリント・ノート点検 | 定期考査<br>レポート作成<br>行動観察<br>プリント・ノート点検 | 定期考査<br>レポート作成<br>行動観察<br>プリント・ノート点検<br>グループワーク | 定期考査<br>レポート作成<br>行動観察<br>プリント・ノート点検 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 一学期 | 第一編　現代社会の諸課題 | 第1章　地球環境を考える<br><br>第2章　科学技術の発達と生命 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:現代の地球環境問題や生命（特に臓器移植、遺伝子治療、安楽死と尊厳死）などを理解し、主体的に考察する。<br>b:現代の環境問題について、身近にある環境問題と関連づけて、将来の世代の地球環境への責任を自覚する。また、生命にかかわる様々な問題に対して様々な考え方、立場を理解し正しい判断を導きだすことができる。<br>c:資本主義経済が発展とともに、環境問題が発生しているメカニズムを理解する。高度医療がもたらす新しい問題を理解する。<br>d:地球全体の環境問題を数値資料からとらえ、国際条約のなどによる環境対策の数値目標の意味を理解する。 | 行動観察<br>プリント点検<br>定期考査 |
| 一学期 | 第二編　現代社会と人間としてのあり方生き方 | 第１章　青年期と自己形成<br><br>第 2 章　他者と共に生きる倫理 | ○ | | ○ | ○ | a:青年期に生きている自分のあり方について関心をもち、自分と社会の関わりについて主体的に考察する。<br>b:青年期における心理的特長をよく理解し、自己形成の課題を見出す。<br>c:青年期における自己を形成していくための課題と、社会が青年に期待する人間像との関係を理解し、その歴史的変遷を考える。<br>d:青年期のことを考えるための作品を通じて、現代における青年期の課題等をとらえている。 | 行動観察<br>プリント点検<br>定期考査<br>レポート作成 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二学期 | 第二編　現代社会と人間としてのあり方生き方 | 第3章　現代の国家と民主政治<br><br>第4章　日本国憲法と国民生活 | ○<br><br>○ | <br><br>○ | | ○<br><br>○ | a:憲法の三大基本原理を理解した上で、人権問題や平和の問題について関心をもち、主権者としての自覚を持つ。<br>b:選挙制度や政党政治をよく理解し、主権者として政治参加のあり方について価値観の多様化など社会の変化を踏まえて公正に判断する。<br>c:理想としての平和主義の問題と現実の防衛政策との関連、多くの人権に関する条文の規定と実際の人権問題との隔たりをとらえている。<br>d:近代国家においては、すべての国民が享有する基本的人権と、人権を守るための制度的枠組を定めた最高法規としての憲法があることを理解している。 | 行動観察<br>プリント点検<br>定期考査<br>グループワーク |
| 二学期 | 弟二編　現代社会と人間としてのあり方生き方 | 第5章　国際政治の動向 | ○ | ○ | | | a:国際政治の動きに関心を持ち、核軍縮問題や人種・民族・領土問題の現状をとらえ、それらの諸要因を追求しようとしている。それら事象の時事問題を取り上げ、北方領土など現代に残された諸問題について日本が平和的に解決するよう努力していることを知る。<br>b:憲法前文の精神を生かし、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について、公正に判断している。<br>c:冷戦期以降の国際政治の動向と国際的紛争の関わりを理解し、国連などの国際的組織が紛争解決のために果たす役割をとらえる。<br>d:地域的集団安全保障体制や国際紛争の地図を活用し、国際連合に求められる役割と新しい秩序の理念をとらえて、理解している。 | 行動観察<br>プリント作成<br>定期考査 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第6章　現代の経済社会と政府の役割 | | | ○ | | a:現代の市場経済に関心を持ち、自分が経済活動の主体として金融・財政問題をとらえ、追及する。<br>b:日本銀行の金融政策と政府の経済政策の現状と課題を見出している。<br>c:政府・日本銀行の財政金融政策とバブル経済や財政危機との関わりをとらえている。<br>d:日本における国債発行額及び国債依存度の推移と財政危機との関わりを統計資料からとらえ、理解している。 | |
| 三学期 | 第二編　現代社会と人間としてのあり方生き方 | 第7章　経済活動のあり方と国民福祉<br><br>第8章　国際経済の動向 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:大戦後の日本経済の発展と、現在の経済に関心をもち、特に労働・環境・社会保障などの諸問題を自らの問題としてとらえている。また、南北問題などの国際問題にも興味・関心をもつ。<br>b:日本経済の発展とともに生じた公害問題・消費者問題・労働問題・社会保障問題など、現状の課題を見出している。<br>c:日本経済の発展と国際経済との関わりを理解し、国内的・国際的な経済の問題の原因・解決の視点をとらえている。<br>d:戦後における経済成長率の推移と景気変動との相関、国際化時代のなかでの日本経済の現状をとらえ、理解している。 | 行動観察<br>プリント点検<br>定期考査 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第三編　共に生きる社会をめざして | 共に生きる社会をめざして | | | ○ | | a:「持続可能な社会の形成」という観点で、自己の生き方や他者との関わりに着目して意欲的に探求している。<br>b:現代社会における課題について、いろんな立場や考え方を踏まえて公正に判断している。<br>c:情報の検索の処理の仕方など、簡単な社会調査の方法を身につけている。<br>d:将来世代の生存条件を確実にする方法、あるいはその知識を身につけている。 | |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。